(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3917326号
(P3917326)
(45)発行日　平成19年5月23日(2007.5.23)　(24)登録日　平成19年2月16日(2007.2.16)

(51)Int.Cl.　F I
A01K 97/04 (2006.01)　A01K 97/04　A

請求項の数 2　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願平11-147235
(22)出願日　平成11年5月26日(1999.5.26)
(65)公開番号　特開2000-333578(P2000-333578A)
(43)公開日　平成12年12月5日(2000.12.5)
審査請求日　平成17年3月30日(2005.3.30)

(73)特許権者　000002439
株式会社シマノ
大阪府堺市堺区老松町３丁７７番地
(74)代理人　100074332
弁理士　藤本　昇
(72)発明者　細見　康雄
大阪府堺市老松町３丁７７番地　株式会社シマノ内

審査官　南澤　弘明

(56)参考文献　特開平０７－２２７１８６（ＪＰ，Ａ）
実開平０２－１０５３６９（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A01K 97/04

(54)【発明の名称】餌箱

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
餌を収容する餌箱本体（１）と、該本体（１）に開閉可能に設けられた蓋体（２）とを備えてなる餌箱において、前記蓋体（２）には、上部が開放した開放収容部（３）が設けられてなり、前記開放収容部（３）が、前記蓋体（２）の上面側に形成された凹部（３）であり、前記凹部（３）の底面には、該凹部（３）に収容した餌の指での把持を容易とすべく、凸部（１２）が設けられてなることを特徴とする餌箱。
【請求項２】
前記蓋体（２）は、前記餌箱本体（１）にヒンジ（４）を介して開閉可能に設けられてなり、該ヒンジ（４）は、前記餌箱本体（１）と前記蓋体（２）とを貫通し且つ連結する環状体（６）であり、該ヒンジ（４）には掛止用のフックが取り付けられてなる請求項１に記載の餌箱。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、餌箱に関し、特に収容された餌（特にサシエ）の取り出しに好適な餌箱に関するものである。
【０００２】
【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】
従来、この種の餌箱としては、図８に示すものが公知である。

即ち、同図に示す如く、餌を収容する餌箱本体１と、該本体１にヒンジ４を介して開閉可能に設けられた蓋体２とを備えてなり、しかも、前記餌箱本体１の側面に設けられ且つバッカン等の容器の周壁１０に引っ掛け可能な掛止用のフック５とを備えてなるものである。

【０００３】

ところで、上記構成からなるものは、蓋体２がフック５に当接するまでの範囲、即ち９０度を僅かに越えた程度の回動範囲に蓋体２の開きが制限される。

このため、上記従来の構成では、蓋体２を十分に開けることができず、蓋体２が開いた状態で内部に手を挿入しようとすると、不用意に蓋体２が閉じることもあり、餌の取り出しが非常に煩雑となる場合があった。

【０００４】

一方、フック５のないタイプものも知られている。

このようなフック５のないタイプものは、蓋体２の開きがフック５に邪魔されず、不用意に蓋体２の閉じる虞は少ない。

しかしながら、日照りによる乾燥や雨等から餌を守る為には、長時間、蓋体２を開いた状態で放置しておくことはできないため、餌を取り出す度に一々蓋を開閉する必要があった。

【０００５】

以上のように、従来の餌箱は、何れのタイプのものであっても、餌の取り出しに、煩雑さを伴うものであった。

【０００６】

そこで、本発明は、上記従来の問題点に鑑みなされたもので、餌箱の餌の取り出しの容易化を図ることを課題とするものである。

【０００７】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決すべく、本発明にかかる餌箱は、餌を収容する餌箱本体（１）と、該本体（１）に開閉可能に設けられた蓋体（２）とを備えてなる餌箱において、前記蓋体（２）には、上部が開放した開放収容部（３）が設けられてなり、前記開放収容部（３）が、前記蓋体（２）の上面側に形成された凹部（３）であり、前記凹部（３）の底面には、該凹部（３）に収容した餌の指での把持を容易とすべく、凸部（１２）が設けられてなることを特徴とする（請求項１）。

【０００８】

上記構成を採用することにより、餌箱本体１に収容された餌を必要分量より多く取り出して、余剰分を開放収容部３に収容させることができる。

【０００９】

また、開放収容部３に収容した餌を取り出し易く、又、蓋体２の重心を低くすることができて、閉じた状態の蓋体２が不用意に開く虞も防止される。

しかも、開放収容部３に餌を収容した場合には、餌の荷重によって蓋体２が下方に押圧され、蓋体２の開く虞がより一層防止される。

【００１０】

また、前記蓋体（２）は、前記餌箱本体（１）にヒンジ（４）を介して開閉可能に設けられてなり、該ヒンジ（４）は、前記餌箱本体（１）と前記蓋体（２）とを貫通し且つ連結する環状体（６）であり、該ヒンジ（４）には掛止用のフックが取り付けられてなるなるものが好ましい。

上記構成を採用することにより、バッカン等の容器の周壁１０等に前記フック５を掛止することにより、ヒンジ４がフック５に直接支えられることになり、該ヒンジ４が蓋体２と餌箱本体１の双方を直接支えることになる。

従って、前記フック５を餌箱本体１に直接取り付けた場合に比して、ヒンジ４の遊びによるヒンジ４自体のガタツキを減少でき、又、それによって蓋体２のガタツキも減少する。

【００１１】
【発明の実施の形態】
以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しつつ説明する。
〈第一実施形態〉
図１に示す如く、第一実施形態の餌箱は、４側面及び底面が閉塞し、上面が完全に開放した開口部を有する餌箱本体１と、該本体１にヒンジ４を介して開閉自在に設けられた蓋体２とから主構成されてなる。
【００１２】
前記餌箱本体１は、可撓性を有する合成樹脂からなり、開口部の変形を防止すべく、該本体１の内周側には、開口端近傍に沿ってワイヤーＣが設けられてなる。
【００１３】
また、図１及び図２の如く、前記蓋体２は、四コーナーがＲ状に形成された略矩形の板状体１１と、該板状体１１の中央に設けられ且つ閉塞手段のない開放収容部としての凹部３と、前記板状体１１のヒンジ４側を除く周縁から下方に延出されたスカート７と、該スカート７の内周側で前記板状体１１の下面側周縁に設けられ且つ蓋体２の変形を防止するワイヤーＢとを備えてなる。
【００１４】
尚、前記板状体１１、前記凹部３、前記スカート７は、前記餌箱本体１と同一の部材（合成樹脂）により、一体的に成形されてなる。
また、前記凹部３は、前記板状体１１と相似し且つ縮小された形状に形成され、周縁側の曲面状の斜面と、中心側の平面状の底面とを備えてなり、しかも、該底面には、平行に２列に配列された凸部１２が形成されてなる。
【００１５】
さらに、前記スカート７は、前記凹部３の底部と同じ深さまで下方に延出されて形成され、前記餌箱本体１の開口部を閉塞する状態に蓋体２を位置させた場合（蓋体２を閉じた場合）、前記餌箱本体１の外周と嵌合可能に形成されてなる。
また、前記スカートの下縁であって、ヒンジ４と対向する側の中央部及びコーナーには、抓み片８が形成されてなる。
【００１６】
前記ヒンジ４は、餌箱本体１と蓋体２とに形成された孔を貫通し、前記ワイヤーＣとワイヤーＢとを抱囲することにより、前記餌箱本体１と前記蓋体２とを連結する環状体６で構成されてなる。
【００１７】
第一実施形態の餌箱は、上記の如く構成されてなるので、以下の利点を有する。
即ち、第一実施形態の餌箱は、蓋体２がスカート７を備えてなり、該スカート７が餌箱本体１の外周と嵌合可能に形成されてなるので、蓋体２を閉じる（即ち、蓋体２で前記開口部を閉塞する）と、スカート７が餌箱本体１と嵌合し、蓋体２が不用意に開くことが防止されて、餌箱本体１に収容された餌が不用意に放出する虞も防止される。
【００１８】
また、第一実施形態においては、凹部３（開放収容部３）の底面には、凸部１２が設けられてなるので、凹部３に収容した餌がゴカイ、イソメ等の滑り易いものであっても、又、摘みにくい小さなものであっても、容易に指で把持することができる。
【００１９】
尚、第一実施形態の餌箱は、上記の如く構成されてなったが、本発明の餌箱は、第一実施形態に限定されず、適宜設計変更可能である。
【００２０】
例えば、図３に示す如く、上部が開口した容器の収容部を均等に２分する間仕切り２１を設け、該間仕切り２１の上端に、蓋体２の一端を設けてなり、前記蓋体２は、前記一端を軸として前記容器の上面側を１８０度回動可能とする構成であり、２分された収容部の何れか一方を餌箱本体１とし、他方を上部が開放した開放収容部３とするものであっても

本発明の意図する範囲内である。

【００２１】

上記構成を採用することにより、２分された収容部の何れであっても、一方を餌箱本体１とし、他方を開放収容部３として使用することができる。

【００２２】

また、上記実施形態においては、餌箱本体の周壁等に、バッカン、クーラー等の周壁に上方から引っ掛け可能な掛止用のフック５を設ける場合であっても本発明の意図する範囲内である。

さらに、フック５を設ける場合においては、図４に示す如く、フック５がヒンジ４に取り付けられてなる構成で、しかも、フック５とヒンジ４が一体成形されてなるものであってもよい。

上記構成を採用することにより、ヒンジ４がフック５に直接支えられることになり、ヒンジ４自体のガタツキが防止され、しかも、餌箱本体１と蓋体２は、ガタツキの防止されたかかるヒンジ４に支えられる為、バッカン等の周壁１０に掛止した場合であっても、餌箱全体が安定する。しかも、一体成形により、部品点数の減少が図られて、製造コストも低減されるという利点を有する。

【００２３】

〈参考形態〉

次に、参考形態としての餌箱について説明する。

尚、第一実施形態と重複する説明は省略し、各部の名称及び図番は第一実施形態のものを適宜援用し、本実施形態で特に説明のないものは、第一実施形態で説明した構成と同じ構成とする。

【００２４】

図５において、参考形態の餌箱は、餌を収容する餌箱本体１と、該本体１にヒンジ４を介して開閉可能に設けられた蓋体２と、前記餌箱本体１に設けられた掛止用フック５とを備えて主構成される。

【００２５】

尚、前記蓋体２は、第一実施形態と同様の開放収容部３及びスカート７を備えてなる。

【００２６】

また、前記フック５は、頂部の両端から下方に延出された長短２本の足によって、逆Ｕ字状に形成されてなり、前記足の一方（長い方）は、その先端近傍が離反する方向に折り曲げられて形成されてなり、両足間に、クーラー又はバッカン等の釣り用容器の周壁１０を上方から挟むことにより、餌箱を釣り用容器の周壁１０に掛止できる構成となっている。

前記ヒンジ４は、環状体６で構成され、該環状体６は、短い方の前記足の頂部よりやや下方の部位から水平に延出して餌箱本体１に貫入した延出片が、上方に鉤状に折り返されて、餌箱本体１及び蓋体２を貫通し、更に、前記頂部の中央に先端が当接するまで下方に延出されて形成されてなる。そして、かかる構成により、前記環状体６の最上位置は、前記フック５の頂部（最上位置）よりも上方に位置してなると共に、前記環状体６の最下位置は、前記フック５の頂部よりも下方に位置してなり、しかも、前記フック５は、前記ヒンジ４に取り付けられた状態で一体的に形成されたものとなる。

【００２７】

参考形態の餌箱は、上記の如く構成されてなるので、餌を取り出すべく、蓋体２を完全に開けると、蓋体２は環状体６に沿って回動し、図６に示す如く、１８０度以上回動した状態となり、例えば風の強い釣り場であっても、不用意に蓋体２が閉じる虞も防止される。

【００２８】

また、参考形態の餌箱は、上記の如く、ヒンジ４とフック５が一体的に形成されてなるので、ヒンジ４を餌箱本体１に取り付けるのみで、フック５が餌箱本体１に取り付けられることになり、フック５を餌箱本体１に取り付けるための特別な構成を必要とせず、製造

コストが安価になるという利点を有する。

【００２９】

更に、参考形態の餌箱は、環状体６の最下位置が前記フック５の頂部よりも下方に位置してなるので、環状体６の最下位置が前記フック５の頂部よりも上方に位置してなる場合に比して、餌箱本体１及び閉じた蓋体２の重心を下げることができ、釣り用容器の周壁１０に掛止した際の安定感が向上することになる。

即ち、フック５の位置よりも餌箱の重心が低ければ低いほど、釣り用容器の周壁１０に掛止した際の餌箱の安定感が向上することになるが、参考形態の餌箱は、環状体６の最下位置が前記フック５の頂部よりも下方に位置してなるため、釣り用容器の周壁１０に掛止した際の餌箱の安定感が向上しているという利点を有する。

【００３０】

尚、参考形態の餌箱は、上記の如く構成されたが、上記構成に限定されず、適宜設計変更可能である。

即ち、参考形態の餌箱は、環状体６によってヒンジ４が形成されてなったが、図７に示す如く、蓋体２と餌箱本体１とを共に貫通する軸をヒンジ４として備え、該軸をフック５の最上位置よりも上方に位置させてなる構成であってもよい。

【００３１】

但し、参考形態の如く、ヒンジ４を環状体６とすることにより、開ける際、蓋体２は環状体６に沿って上方に移動しつつ回動し、閉じる際、蓋体２は、環状体６に沿って下方に移動しつつ回動する為、開いた状態の蓋体２の位置よりも閉じた状態の蓋体２の位置を下位に位置させることができ、蓋体２が閉じた状態では、フック５の位置に対する餌箱の重心位置が下がることになり、バッカン等の周壁１０に掛止した際の餌箱の安定感が向上する。

【００３２】

【発明の効果】

以上のように、本発明にかかる餌箱は、餌箱本体に収容された餌を必要分量より多く取り出して、余剰分を開放収容部に一時的に収容させることにより、餌箱本体にある餌を乾燥や雨等から守ることができると共に、再度餌を必要とする際は、開放収容部に収容された余剰分の餌を使用することができる。従って、餌を使用する度に蓋体を開閉するという煩雑さを回避でき、従来のものに比して、餌の取り出しが容易となるのである。

【図面の簡単な説明】

【図１】　第一実施形態の餌箱を示す斜視図。

【図２】　同実施形態の蓋体を示す図１のＡ－Ａ断面図。

【図３】　第一実施形態の他の実施形態を示す斜視図。

【図４】　第一実施形態の他の実施形態を示す側面図。

【図５】　参考形態を示す一部断面を含む側面図。

【図６】　同側面図。

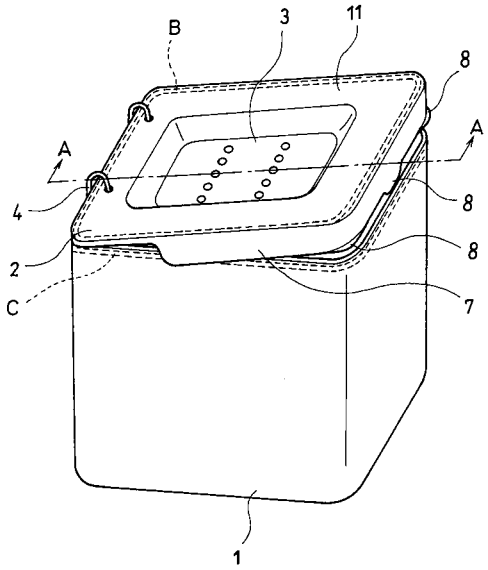
【図７】　参考形態の他の形態を示す側面図。

【図８】　従来の餌箱を示す斜視図。

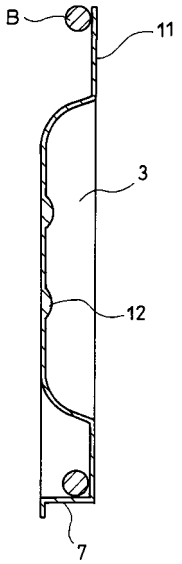
【符号の説明】

１・・・餌箱本体、２・・・蓋体、３・・・凹部（開放収容部）、４・・・ヒンジ、５・・・フック、６・・・環状体

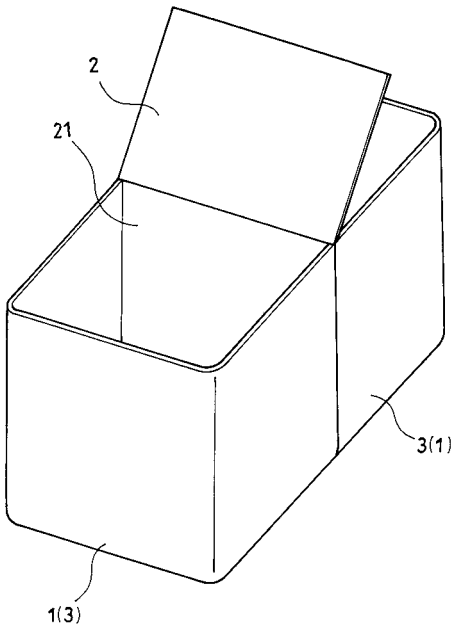
【図１】



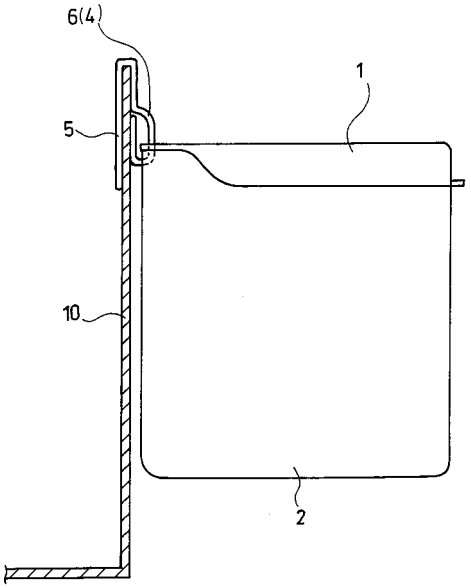
【図２】



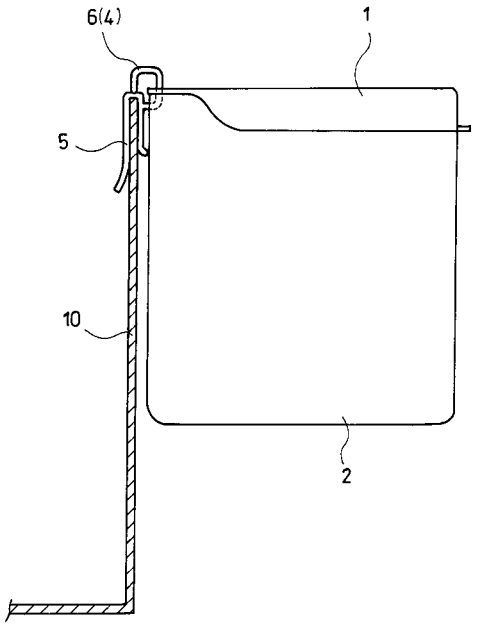
【図３】



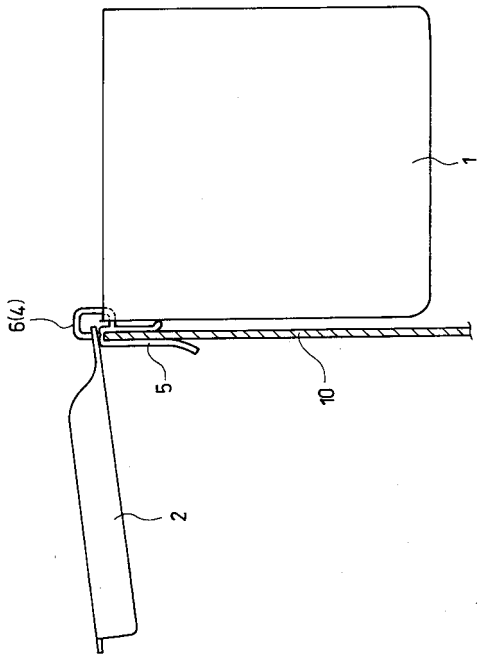
【図４】



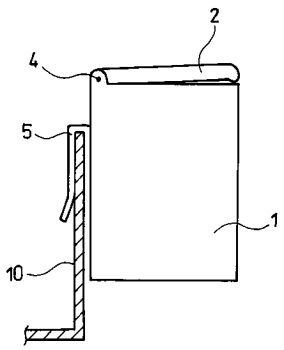
【図５】



【図６】



【図７】



【図８】

